

政治と社会への目を開いてくれた高校時代

五十嵐 仁（法政大学大原社会問題研究所教授）

「プログ 五十嵐仁の転成仁語」―掲載2012年9月25日（火）
〔以下の論攷は、新潟県立直江津高等学校『創立100周年記念誌』2012年8月、に掲載されたものです。〕

還暦になった誕生日の翌日に、この原稿依頼の電話をいただきました。直江津高校を卒業して東京に出てきてから、42年の歳月が流れたことになりました。

入学式で新入生総代を務めたのが、私の高校時代の始まりでした。直ちに、美術部の部室を訪問し、そこで石膏デッサンをしている風変わりな先輩に出会いました。今、ケーキ屋「ラ・ソネ」の親父におさまっている曾根一郎さんです。

それからは、登校すると先ず部室に行き、昼休みにも部室に行き、授業が終わるとすぐに部室に行くという生活になりました。授業以外は、ほとんど曾根さんの尻にくっついて動き回っていたように思います。

この頃は絵の道に進もうかと考えていたこともあり、1年の夏休みに単身上京して『美術手帳』を片手に銀座の画廊めぐりなどもしました。たまたま上映していた映画『戦争と平和』を見て、大きく影響されたのもこの時です。尾神岳や妙高山での写生旅行や合宿など、美術部では楽しい思い出がいっぱいです。

その後、曾根さんが卒業したこともあって、弁論部に入りました。階段下の部室の本箱には『ベトナム黒書』や『沖縄黒書』があり、帯の推薦の言葉が目に入りました。都立大学での恩師・塩田庄兵衛先生との出会いです。これらの本を出版していた労働旬報社（現・旬報社）と、研究者になってから深く付き合うことになろうとは、夢にも思いませんでした。

高田高校などに行っていた仲間達と一緒に、高校生集会や映写会などもやりました。この時上映した『裸で狼の群れのなかに』という映画の舞台になったザクセンハウゼン強制収容所には、世界一周旅行の折、立ち寄る機会がありました。

【論巧】政治と社会への目を開いてくれた高校時代

高校2年の夏休みに東京での原水禁世界大会に参加し、団長を務めた京都・奈良への修学旅行では、ベトナム解放民族戦線支援のカンパ活動を行ってトランジスタ・ラジオを贈りました。このような形でベトナム反戦運動に加わったことは、私の生涯の誇りです。

3年の時には生徒会の役員になり、丸刈りの強制に反対して頭髪の自由化を求める署名運動なども行いました。運動会での仮装行列に有志で参加し、カッパのように頭の真ん中を五厘刈りにしてアピールしたこともありです。臨時生徒総会を開いて決議を挙げ、ついに翌年からの頭髪の自由化を実現したものです。

その後は受験勉強に没頭するわけですが、安田講堂での攻防戦によって東大の入試は中止となり、「受験戦線」は大混乱しました。幸い、都立大学に合格しましたが、直ちに学生自治会の副委員長となって学生運動に加わり、自治会委員長を辞めた直後、20歳の秋に暴力学生によって竹竿で右目を刺され失明します。

その後、世の中を良くしたい、そのために役立ちたいとの熱い思いを抱いて法政大学大学院に進み、政治や社会・労働問題の研究を生業とすることになりました。そのきっかけは、学業やサークル活動だけでなく、多くの政治・社会問題に関わることになった高校時代にあったように思います。

夢は見るものです。そして、それを追い求める者だけが、夢を実現できるのです。その夢を

育ててくれたのが、私の高校時代でした。

その頃、三つの夢を見ました。一つは、ふる里を離れて身を立てることです。二つ目は、大原美術館など世に知られた美術館を訪問して名画を見ることです。そして、三つ目は、世界を一周することでした。

幸いにも、法政大学に職を得て、『社会労働大事典』（旬報社）の編集・刊行など専門の研究 者として仕事をしています。大原美術館と縁のある大原社会問題研究所の所長として、名画に 囲まれた美術館の中で創立80周年記念レセプションに出席できました。世界の労働資料館・博 物館や労働組合を訪問する調査旅行で30カ国以上をめぐり、ルーブル美術館やプラド美術館、 メトロポリタン美術館なども訪問しました。高校時代に見た夢を、全て実現することができた わけです。

幸運だったと思います。その夢と理想をはぐくみ、実現に向けての意欲と能力を与えてくれ た直江津高校に、深く感謝しています。楽しく懐かしい、今となっては夢のような高校時代で した。

【参】「五十嵐仁の転成仁語」<http://igaiin.blog.so-net.ne.jp/>

五十嵐仁『この目で見てきた世界のレイバー・アーカイヴス―地球一周…労働組合と労働資 料館を訪ねる旅』法律文化社、2004年

【論巧】 政治と社会への目を開いてくれた高校時代

五十嵐仁「心に残る私の一冊 私の人生を決めた『戦争と平和』『企業と人材』第42巻第
955号（2009年10月5日）

法政大学大原社会問題研究所編『社会労働大事典』旬報社、2011年